

## アジア太平洋地域における経済連携とロシアの東方シフトの検討

### 【研究概要】

本研究会では、アジア太平洋地域への積極的な進出を目指すロシアの東方シフト戦略について経済的・政治的側面から検討し、ロシアの東方シフトがアジア太平洋地域の経済および政治にどのようなインパクトをもたらしているのかを分析することを目的とする。TPP 妥結後のアジア太平洋地域における地域統合プロセスを中長期的に展望する際、巨大なエネルギー輸出国であるロシアの動向は無視できない。プーチン現政権は、発展著しいアジアのダイナミズムを取り込み、ロシアの経済・社会を刷新することを最重要課題として掲げ、政治的・経済的重心の東方シフトを目指している。アジア太平洋地域への接近を目指すロシアに対し、日本はどのように関与していくべきかについて検討していく。

アジア太平洋地域に接近するロシアの梃子は、何と云ってもその豊富なエネルギー資源にある。ロシアのエネルギー外交の展開については特に中国との関係に注目しつつ、日本や朝鮮半島への輸出がどう展開していくかが重要な分析対象となる。ユーラシア大陸の東西にまたがる広い版図や北極海航路もまた、ロシアの東方シフト戦略を支える武器となっている。アジアとヨーロッパとを結ぶ架け橋としての役割を果たそうとするロシアは、従来のシベリア横断鉄道に加え、ヨーロッパとアジアを北極海で結ぶ海運の積極的活用を目指している。このようにアジアとヨーロッパを連絡する陸と海の回廊が整備されることで、アジア太平洋地域のさらなる発展が期待される。

だが、ロシアの東方シフト戦略の今後には不確定の要素が多いことも事実である。特にウクライナ危機以降、欧米諸国との関係が急速に悪化する中で、従来のような極東地域の巨大開発は頓挫しかけている。そうした中で、政治的には中国との接近がみられるなど、東方シフト戦略を制約する要因と促進しうる要因とが混然としている。本部会では、対ロシア制裁の動向も含め、以上の要因を精査することによって、ロシアの対アジア太平洋地域経済戦略の行方を展望する。

### 【研究体制】

- 主査： 下斗米 伸夫 法政大学法学部教授
- 委員： 新井 洋史 環日本海経済研究所主任研究員  
伊藤 庄一 日本エネルギー経済研究所研究主幹  
岡田 邦生 ロシア NIS 貿易会ロシア NIS 経済研究所部長  
原田 大輔 石油天然ガス・金属鉱物資源機構研究員  
山添 博史 防衛研究所主任研究官
- 委員兼幹事：前川 信隆 日本国際問題研究所研究調整部長  
伏田 寛範 日本国際問題研究所研究員